

受領No. 1597

リンパ管を標的とした革新的心筋炎治療法の開発

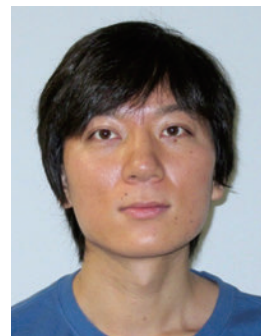
代表研究者 丸山 和晃（三重大学大学院医学系研究科修復再生病理学 学内講師）

共同研究者 今中-吉田 恭子（三重大学大学院医学系研究科修復再生病理学 教授）

Development of an Innovative Treatment for Myocarditis Focusing on Lymphatic Vessels

Representative Kazuaki Maruyama (Lecturer, Department of Pathology and Matrix Biology, Mie University Graduate School of Medicine)

Collaborator Kyoko Imanaka-Yoshida (Professor, Department of Pathology and Matrix Biology, Mie University Graduate School of Medicine)



研究概要

心筋炎は心筋を主座とする炎症性疾患である。多くはウイルスなどによる自己免疫反応により引き起こされ、急性の経過を経るが、一部の症例は炎症が持続・慢性化し拡張型心筋症・心不全へと移行する。心筋炎は自然免疫系による過剰なサイトカインの産生、獲得免疫系による心筋細胞の障害、炎症反応の消退といった過程をたどり、臨床的には炎症反応をいかに抑制するかと自然軽快までの血行動態維持が重要な課題である。近年では、COVID-19やmRNAワクチン、オズウイルスなどに関連する心筋炎が注目されているが、心筋炎の病因は未解明で、治療法も好酸球性心筋炎（心筋炎の病型の一つ。型によってはステロイドが病態を増悪させる）に対するステロイド以外に有効なものがない。したがって臨床的、社会的にも心筋炎の病態解明や新規治療法の探索はニーズが高い。本申請は、これまで、心臓病の治療標的として注目されてこなかったリンパ管による免疫制御機構に着目し、リンパ管を標的とする新たな心筋炎の治療法開発を目指すものである。将来的には、リンパ管に着目した心臓の免疫制御という観点から、より幅広く、炎症が関与する心臓病（心筋梗塞、拡張型心筋症、HFpEFなど）へも展開し、広く心臓免疫を解明する基盤となる事を目指す研究である。